

科目名	健康の指導法				担当	堤 裕美			
形態	演習	単位数	1	開講時期	1 年後期	実務経験	—		
必修	幼児：必修 保育士：必修				ナンバリング	Y3103	DPとの関連	3	
授業概要	領域「健康」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即して、子どもの主体性を重んじ、且つ対話的な相互の関わり合いの中で幼児自身の深い学びが実現する過程を踏まえた保育実践を構想する方法を身に付ける。								
到達目標 学習成果	乳幼児期の運動発達や身体活動を促すために、保育環境の工夫や保育者が果たす役割について理解を深める。また、遊びや生活の場面において乳幼児の動きを引き出す様々な工夫や動線に配慮した環境を構成し、模擬保育の実践を通じて指導上の留意点や保育者の役割について学びを深める。								
授業計画	回	内容							
	1	ガイダンス	5 領域および領域「健康」の視点で具体的な子どもの姿を考察する						
	2	運動遊びの実践に向けて	幼児期の身体活動及び多様な動きの経験を促すための環境構成の意義を理解する						
	3	運動遊びの実践（前半）	毎時の感想を共有し合い ・運動あそび指導の留意点と保育者の役割を理解する ・動機付けや意欲などに配慮した保育を実践する						
	4	2 か所で 1 人 15 分ずつ							
	5	毎時 3 人ずつ実施							
	6								
	7								
	8	幼児と保育者の双方向評価①	情報機器を活用しながら幼児と保育者の視点に基づいて評価及び省察をする（評価Ⅰ）						
	9	運動遊びの実践（後半）	毎時の感想を共有し合い ・安全に配慮した保育を構想する ・幼児（学生）の主体性や相互の関わりを通しての保育を実践する						
	10	2 か所で 1 人 15 分ずつ							
	11	毎時 3 人ずつ実施							
	12	幼児と保育者の双方向評価②	情報機器を活用しながら発達段階や安全への配慮について評価及び省察をする（評価Ⅱ）						
	13	運動遊びにおける援助と配慮	具体的な子どもの姿の予測の意義を理解し、活動内容や環境構成、保育者の援助と配慮を指導案に表す						
	14	幼児の運動発達に関わる現代的課題	幼児の運動発達に関わる現代的課題について環境の違いによる影響を考察する						
15	幼児の健康に関わる現代的課題と援助及び環境構成の在り方	具体的な子どもの姿から幼児の健康及び運動発達に関わる現代的課題に対する保育者の援助や環境構成について考察する							
評価基準	乳幼児期の運動発達や身体活動を促すための保育環境の工夫や保育者が果たす役割について理解し、保育を構想することができるか。また、保育実践の評価及び省察から課題意識を持つことができるか。								
評価方法	レポート 20% 授業内課題 80%（指導案の立案、実践、評価、指導案の再立案）								
フィードバック 方法	授業内課題を返却し、内容を学生間でも共有する								
アクティブ ラーニング	動的活動の実践及び、映像を元に客観的に活動を振り返る 授業内課題を用いたグループワークとディスカッションを行う								
教科書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針原本』 「幼児における運動発達と運動遊びの指導」 河邊 貴子・柴崎正行・杉原 隆 編／ミネルヴァ書房								
参考書	適宜紹介する								
履修条件	日頃から身の回りの環境や教材に関心を持ち、保育構想や保育実践に役立てられるようにすること								
授業外学習	事前学習：幼児の運動遊びに活用できそうな身の回りの教材（廃材も含む）を研究する 事後学習：他者のアイデアを自身の保育実践にも役立てられるよう記録する								
オフィスアワー	掲示板に掲示する								